

加賀市の概要と デジタル活用に関する取組みについて

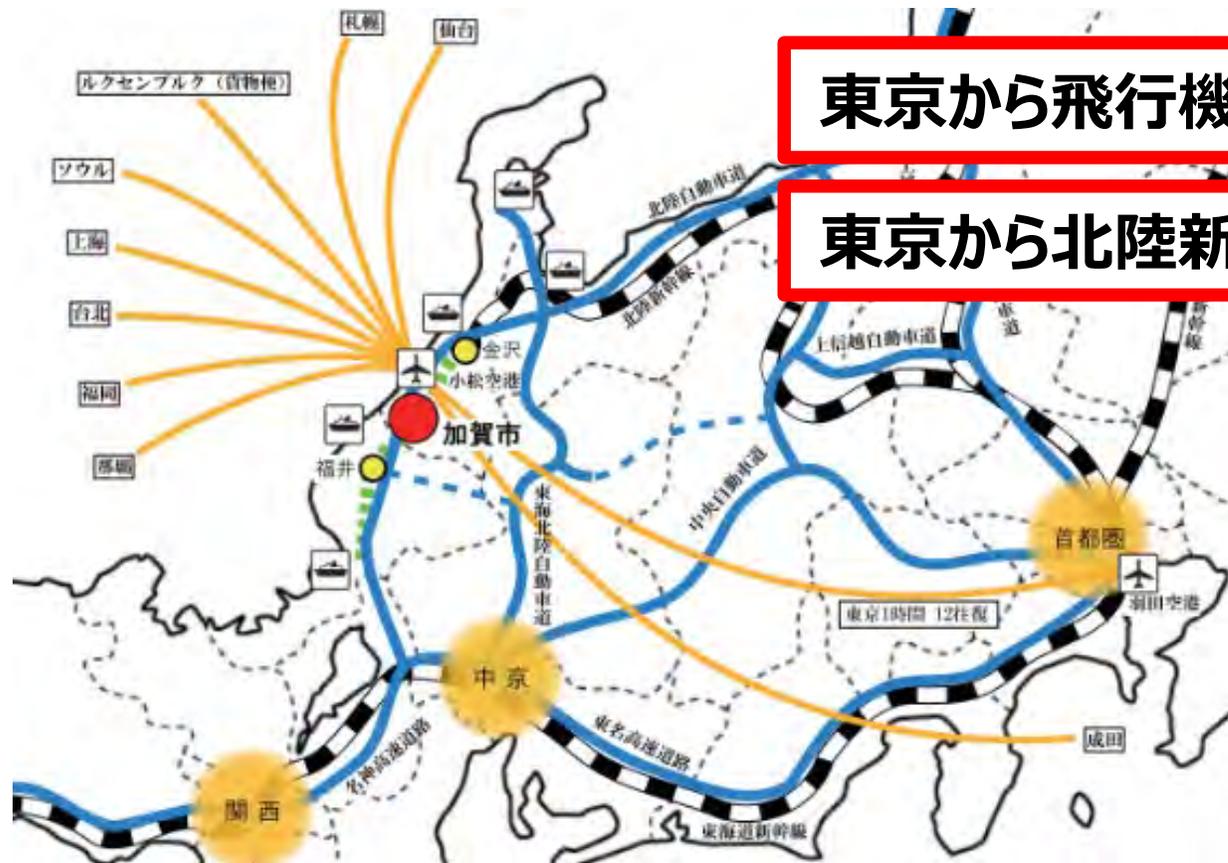
「ポストコロナ」時代におけるデジタル活用に関する懇談会
ワーキンググループ（第5回）

2021年2月26日

石川県 加賀市

加賀市の概要

加賀市の位置・アクセス



位置 : 石川県の南西部、
福井県との県境に位置

面積 : 306 km²

人口 : 65,295人 (2021年1月1日現在)

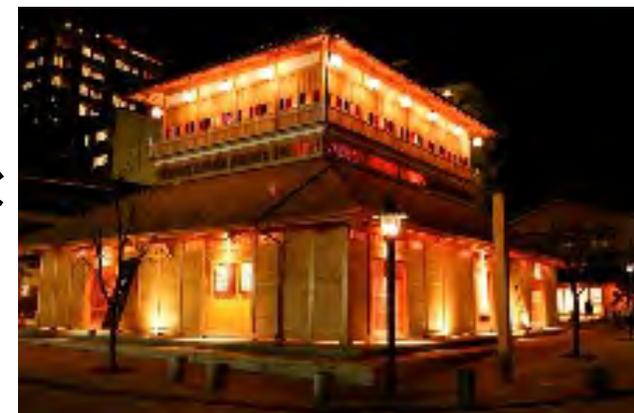
観光

温泉

- ▶ 全国に知られる「山代」「山中」「片山津」の個性豊かな3温泉。年間200万人の宿泊客で賑わう。

歴史

- ▶ 大聖寺藩城下町「大聖寺」の長流亭や山の下寺院群の町なみ
- ▶ 日本遺産に登録された「加賀橋立」の北前船船主集落



山代温泉古総湯

産業

製造業

- ・部品メーカーがものづくり産業の中心
- ・チェーン製造や土産菓子の製造も盛ん

伝統工芸

- ▶ 日本を代表する色絵磁器「九谷焼」、生産額日本一の「山中漆器」の発祥の地

農業・漁業

- ▶ ブドウ、梨、ブロッコリーなどの栽培、橋立漁港で水揚げされるカニや甘エビ



「スマートシティ加賀」の実現に向けた取組み

市民合意の体制づくり・気運づくり

加賀市スマートシティ推進官民連携協議会 (2019年8月)

- ・ 市民との合意形成を図るため設立
- ・ 産業団体や市民団体等 25 団体で組織



加賀市スマートシティ宣言 (2020年3月)

世界経済フォーラムが示す柱と整合させた

「スマートシティ加賀 運営の5原則」

- ・ 透明性を確保したまちづくり
- ・ 公平性と多様性を重視したまちづくり
- ・ 相互運用性を確保したオープンで機敏かつ柔軟なまちづくり
- ・ 事業継続性を担保したまちづくり
- ・ 安心・安全・強靱なまちづくり



(参考) スマートシティ推進に関する取組事例

プログラミング教育の推進

- ・2016年度に総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及促進モデル事業」に採択
- ・国の必修化に3年先駆けて、2017年度から全小中学校で開始
(国による必修化は2020年度から)
- ・プログラミング教育の中核を担う教員を養成



アバター技術の活用

- ・(株)ANAホールディングスとの連携協定 (2019年5月)
- ・アバターを活用した入院患者へのお見舞い
- ・市役所窓口、障がい者施設等に設置
- ・遠隔授業、オンライン修学旅行などでも活用



行政サービスデジタル化の推進

電子国家・エストニア
の最先端技術を導入！

xID株式会社（旧blockhive）との
「次世代電子行政の実現に向けた連携協定」（2019年12月）



「マイナンバーカード」を活用して、
スマホによる個人認証

2020年8月
サービス開始

100種類の行政手続きを
年度内に導入予定

全国1位（市区）

加賀市民のマイナンバーカード交付率

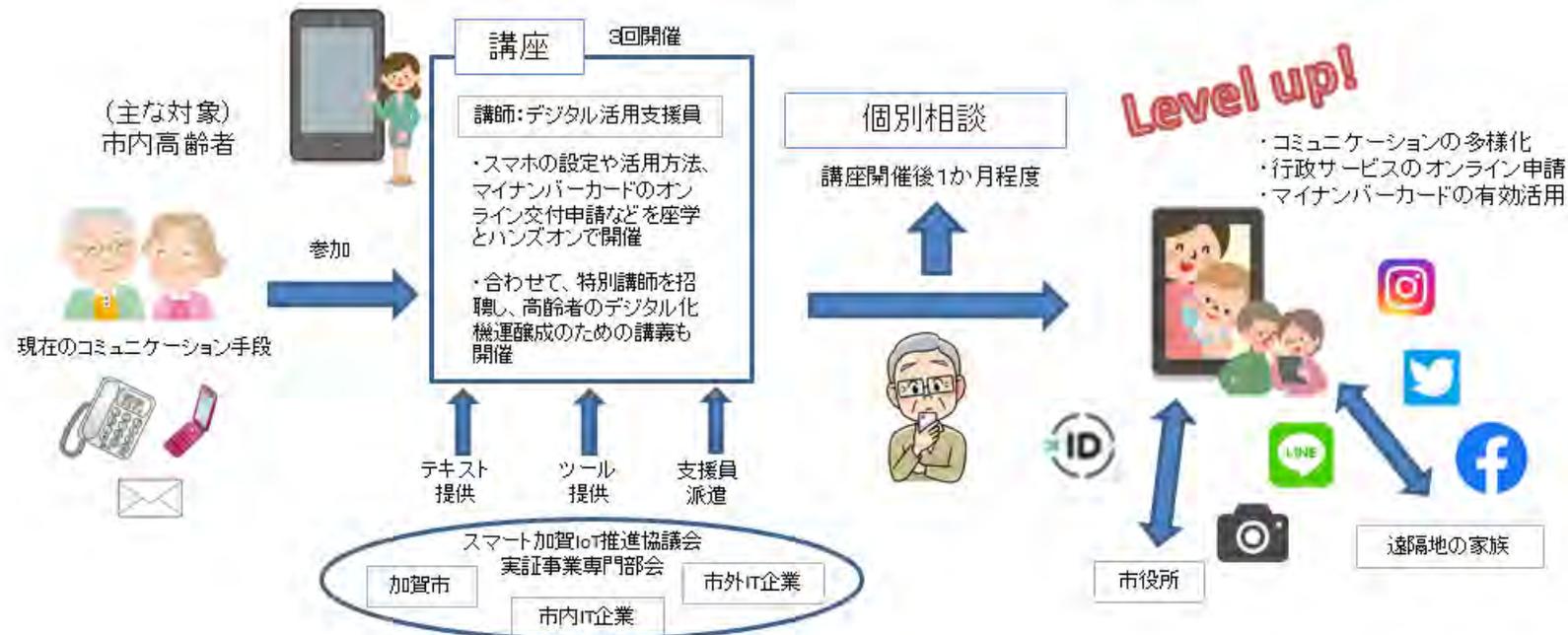
56.1% !! (R3.2.1現在)

高齢者のデジタルデバイス解消に向けた取組

加賀市におけるデジタル活用支援員推進事業

- 総務省の地域実証事業の採択
- 市内高齢者がスマートシティ推進によるデータ駆動型社会の恩恵を受けるため、デジタルデバイス（特にスマホ）の使い方相談会を開催

実証事業モデル



今年度の実施内容

- 合計4回のスマホ教室を開催
- 「未経験者向け基本操作」から「マイナンバーカードを活用した電子申請」まで
述べ66名の市民が受講

回数	実施日	対象者 (高齢者／障害者等)	定員 (参加者数)	内容	備考
第1回	11月27日	高齢者	15	スマートフォン基本操作	スマートフォン未所有者を対象（機器貸出）
第2回	12月18日	高齢者	19	スマートフォンの活用（LINE）	スマートフォン所有者、未所有者を対象
第3回	1月22日	高齢者	16	マイナンバーカードを活用した電子申請	スマートフォン所有者を対象
第4回	2月10日	高齢者	16	スマートフォン基本操作	好評につき、追加開催

目次 第1回相談会

- ①スマートフォン（スマホ）
- ②スマホを触ってみよう
- ③スマホで文字を入力してみよう
- ④インターネットで検索してみよう

目次 第3回相談会

- ①電子申請
- ②xIDをインストールしよう
- ③xIDの初期設定をしよう
- ④電子申請をしてみよう



マイナンバーカードを
活用した
電子申請サービスを
体験

(参考) スマホ教室の様子



※初心者向けのため、
できるだけ1対1のフォロー
ができるよう支援
員を配置

令和2年11月27日
記念講演会（講師：若宮正子氏）
市民を含む60名が参加



年寄りだって
やればできる！

(参考) アンケート結果

【参加者】

- 定期的に開催して欲しい
- とても楽しく勇気が湧いた
- ますますスマホに興味が増えた
- スマホを使うのが初めてだったが、支援員の説明がわかりやすかったため、理解できた
- 一定期間スマホを借りて、慣れてから購入を検討したい

【支援員】

※印象に残った参加者の声

- 携帯ショップだとわからないことが聞きにくい、自分のペースに合わないが、市が開催してくれると教室への参加のハードルが下がる
- SNSを使いたくて、本を購入したが、本の写真と実際の画面が異なるため結局わからなかった
- 基本操作はわかったが、機能的なことが理解できない

次年度の取組予定

デジタルデバイス普及促進事業

スマートシティにおけるデジタル化の恩恵を市内全域に浸透させるため、デジタルデバイスを市民一人一人が持ち普及させることにより、世代間の情報格差を解消する。

【スマホ購入助成】

行政サービス利用に必要なマイナンバーカード対応スマホ購入時の費用の一部を補助



【スマホ教室開催】

現在のコミュニケーションツール



【スマホ初級教室】
スマホの基本的な
使い方・体験会

【高度なスマホ活用教室】

電子申請サービスや
マイナンバーカード読み取り方法など
をハンズオン研修

市民と行政・民間が
データでつながる社会の実現

ご清聴、ありがとうございました。